

2016年4月27日

## 岡本さん「アートは考え方変える」

### 苦美術博物館で中庭展示の作品紹介

苦小牧市美術博物館は23日、同館でスタートした中庭展示「UFO after」を未確認墜落物体「その後」を手掛けた京都在住の美術家、岡本光博さんのアーティストトークを開いた。岡本さんはアーティストが時にリスクや命を懸け、社会と対峙（たいじ）している姿を作品を紹介しながら話した。

岡本さんは美術家などが残した言葉をキーワードに、影響を受けたアーティストや自身の作品を映像を通して紹介。「社会変革の起爆剤（ヨ



ーゼフ・ボイス」という言葉では、127ポンドのコカコーラを煮込んで土のようになった「残骸（ざんがい）を積んだ」(Cola project)（ヘ・シャンコ、2008）を示しながら「アートは起爆剤として人の見方や考え方を変えるきっかけになる。この作品から見えないものが見えてくる」と話した。

パレスチナ自治区のベツレヘムの分離壁にバンクシーというアーティストが描いた壁画は、テロリストの男が爆弾ではなく花束を投げている姿が描かれ、岡本さんは「命を懸けて描き切るパワーを、すごく魅力的に感じた」とし、世界中でアートが社会と戦っていることを説明。福島第一原発事故を受け、自身が福島県内に積み上げられている汚染廃棄物袋に目玉を付けて制作したキャラクター「モレシヤン」への思いも話した。

スペシャルゲストとして青森県立美術館の学芸主幹の工藤健志氏も登場。「彼の作品を見て感じることは、多分見ているその人自身がどういう人間かを映している。そういう見方で作品を見ていただけると面白いのでは」と話した。アートの魅力を紹介した岡本さん。画像は自身の作品「モレシヤン」